

## DX 企業講話 上田プラスチック株式会社 様

### 講師

上田プラスチック株式会社

管理部 次長 武 様

管理部 総務人事課 山浦 様

### 講話内容

- ・地域企業における DX の取組
- ・会社概要、経営理念、グローバル展開、アピールポイント（製品案内）など

### 学生のワークシートから抜粋

#### 【企業についてわかったこと等】

- ・日本だけでなく中国とタイにも工場があり、プラスチック製品を作っている。
- ・特性を熟知した金型づくり、成形技能によって高精度な成形を実現でき、生産ラインの自動化を行うことで検査と箱入れの作業を自動化することができる。
- ・「樹脂と樹脂をくっつける」を技術課題として取組んでいる
- ・上田プラスチックは、土にかえるハンドスピナーや、製造する際に余ったプラスチックを使ったホッチキスなどの製品もつくり、環境にも配慮していると分かった。
- ・上田プラスチックの DX の現状として、外注状況、売上の状況を管理する業務管理システム、部門ごとに必要な情報の共有ができるパソコン LAN 構築などがある。
- ・IT やデジタル技術を活用して、競争力を高めると共に従業員の働き甲斐を向上している
- ・ロボット化に力を入れている。ロボット化は、技術部門が自作している。
- ・DX とは作業を効率化し、働き方改革をしていくこと。
- ・ロボット化によって、自動で溶着、自動で組み立てる、自動でシールを貼る、無人で検査するなどを人間の代わりにやっていた。

#### 【感想】

- ・様々なことに取り組んでおり、自動化や DX 化で今後の人材不足等の問題点を解決していてすごいなと思った。
- ・今の会社は様々な問題に適応していかないといけないのが大変だなと感じた。就職するころにはほとんどが自動化されたりするのだろうか。
- ・インターンシップの様子で、色々な機会を見れて、プログラミングにも挑戦できておもしろそうだなと思った。
- ・上田プラスチック製のプラスチック製品が身の回りにあるのかもしれないと思うと会社で働いている人も自分もそれぞれの楽しみの気持ちがあるんだなと感じました。

- ・上田プラスチックは、上田地域の会社で、名前は知っていたけれど、何をしている会社なのか全く知らなかったのので、今回の講演で、工場やロボットの動く様子を知ることができてよかった。
- ・様々な会社が DX 化を進めるうえでプログラミング、知識、技術がとても大切になってくる。少しずつ学んでいきたいと思った。
- ・プラスチックはとても身近にあって環境によくないなどと言われていることがあるけれど、しっかりリサイクルをしてゴミを捨てないなど正しく使えば、とてもいい物だと思うので性質を理解し、正しく使いたいと思った。
- ・実際に見せてもらったプラスチック製品がすごく良くできていてきれいだった。
- ・IoT 化によって作業が効率化されるがそれと同時にプログラミングやロボットを造る人の技術も必要とされてきているのだと思った。
- ・作業効率を上げるためにロボットを自作していると聞き、外注じゃなく自分たちで作っているのはあまり聞いたことなかったなと新鮮に感じた。
- ・会社の自慢できる所、アピールできるところがたくさんあるのはいいと思ったし、それにひかれて入社していく人がいるのは納得だと思う。